

ごあいさつ



札幌市農業協同組合
代表理事組合長

軽部 幹夫

日頃、みなさまには格別のご愛顧をいただき厚くお礼申し上げます。

JAさっぽろは積極的な情報開示を通じて経営の透明性を高め、当JAに対するご理解を一層深めていただくために、令和3年度の事業内容に関するディスクロージャー誌『JAさっぽろディスクロージャー2022』を発行いたしました。みなさまが取引金融機関を選択する際の判断材料として、また、当JAの地域貢献活動への取り組み、業績の推移などをご理解いただくための一助として、ご一読いただければ幸いです。

●JAを取り巻く情勢

国内に新型コロナウイルス感染症が蔓延し、初の緊急事態宣言が発出されてから2年が経過しました。我々の暮らしは一変し、経済・社会活動に大きな影響が及んでいます。当JAにおきましても、窓口業務の時間短縮、訪問活動の自粛などの対応を余儀なくされました。また、感染リスクを避けるため、JAまつり等の行事も縮小あるいは中止せざるを得なくなるなど、組合員・地域のみなさまに大変ご迷惑、ご不便をおかけしました。

海外では穀物相場の上昇で、北米、南米を中心に肥料の需要が高まっており、肥料原料の価格が大幅に上昇、加えて燃料、飼料など生産資材価格の高騰による国内生産農家への影響が懸念されています。また、気候変動や国際情勢の不安定化によって、食料安定供給のリスクが現実化する中、JAグループとしては政府に対し、将来を見据えた「食料安全保障の強化」を求めています。

●事業実績の状況

令和3年度における管内の農業は、春先の融雪も例年通りであり、播種・定植作業は順調に進みました。その後、7月中旬から8月にかけての高温・干ばつなどの気象条件が続き、作物の栽培には厳しい年となりました。

当JAの基幹作物である玉葱は全道的に収穫量が少ない年となりましたが、市場相場、販売価格については高値での取引が続き順調に推移しました。

そ菜につきましては、7月に入り記録的な猛暑日が続く作物の栽培には厳しい1年となり、市場価格が一部の品目を除き前年を下回り低調のまま推移しました。

信用・共済・相談事業につきましては、長期化する金融緩和政策による収益減少懸念を見通し、支店機能再編構築に取り組み、組合員・地域のみなさまのニーズに応じた積極的な提案や相談に努めた結果、事業利益では計画を大きく上回る成果を得ることが出来ました。組合員・地域のみなさまのご利用、ご協力の賜物と深く感謝を申し上げます。

●みなさまへのメッセージ

令和4年度は、第5次中期3ヵ年経営計画の初年度であり、3年間の重点テーマを「農業の持つ価値の発信」と掲げ、農業振興へ向けて何が出来るかを役職員一人一人が意識し、組合員・地域のみなさまのよりどころとなる組織を目指してまいります。

何卒、組合員・地域のみなさまのより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

令和4年7月